

(3) 校内研究計画

令和3年度 校内研究全体計画

伊万里市立松浦小学校

1 研究主題

主体的に学ぶ算数科の指導方法の研究

～自分で選択する学び合い活動を通して～

2 主題設定の理由

本校は、児童数112人の小規模校である。緑豊かな自然に囲まれた環境で、多くの児童は素直で明るく、学習にも真面目に取り組んでいる。一方で、小集団や全体の場で自分の思いを表現することを苦手と感じ受け身になりやすい児童が多く、やや積極性に欠ける面が見られる。自分から進んで学び行動する主体性を育むことが本校の課題である。そこで令和2年度から、児童同士が関わり合いながら主体的に学びに向かう態度を育むために、「学習スタイルの選択」という手立てをとり、それぞれが自分の意思で選択した学習スタイルで学び合う活動を進めてきた。「学習スタイルの選択」は、自力解決の時間を取った後に設定する。ここでは、「自力解決ができたから友達の考えを比べたい」、「自力解決できていないので、友達の考えをヒントにしたい」という児童は【他者との対話】を選択する。「自力解決できたので、さらに自分で答えを確かめたい」、「自力解決できていないので、一人でもっと考えたい」という児童は【自分との対話】を選択する。

前年度の成果として、「学習スタイルの選択」を取り入れたことで積極的に友達に話を聞きに行くようになった児童が増えた。また、自分の考えを持っていない児童も、他の児童の考えを聞いたり教えてもらったりしたことで授業に意欲的に参加することができた。選択後、何とか自分の考えを伝えようとしたり、他の考えがないか探しにいこうとしたりして学習の深まりも見られるようになった。

しかし、コースを選択することが困難だったり、いつも一人で学習に向かったりする児童も見られ、自分にとって良い選択をしているとは言えない児童もいた。さらに、児童同士の学び合いの中で、いつも同じ児童との学び合いになったり、ただ一方的に考えを伝えるだけで相手に意見を述べることができなかつたりして、深まりのある学び合いができていないことが多かった。

そこで、今年度も前年度に取り組んできた「学習スタイルの選択」を継続し、算数の研究を深めていく。小集団や全体の中で自分の考えを表現し主体的に学習に向かう児童の姿を目指し、単元のまとまりの中で、学習スタイルの選択の場を設定する。児童自身が学習スタイルを選択する場を設けることで、学習の主体者という意識をもち、自分に適した学びを進めることができる。前年度の課題をもとに、今年度は、友達との学び合いの場面での「学習スタイルの選択」を重点的に充実させていく。自分に適した学びを選択する中で友達との学び合いで考えを深めることができるように、既習事項をふり返ったり、具体物で操作活動をしたりできるヒントコーナーを充実させる。また、児童同士の関わりがもてるように、小集団を意図的につくる場面を教師がコーディネートする。さらに、自分の考えを表現し他者と練り合うことで自分の学びが高まることを教師が価値づけしていく。このように、学習スタイルを選択する学び合い活動を通して、小集団や全体の中で表現できる力を育み、他教科の可能な単元でも選択の場を設定し、主体的に学習に向かうことができるようにしていきたい。

3 研究の目標

問題解決のために、他者と学び合うスタイル（他者との対話）や自分の考えを深めるスタイル（自己との対話）を選択しながら、自分の考えを表現し他者と練り合うことで、学びに主体的に向かうことができる算数科学習の在り方を探る。

4 研究の仮説

算数科の学習において、自力解決の学び合いの場面で、形式に捉われずに他者との対話または自己との対話の学習スタイルを自由に選択しながら、小集団や全体の場で自分の考えを伝える授業を行えば、主体的に学ぶ児童が育つであろう。

5 研究の内容と方法

(1) 主体的に学ぶ算数科の指導方法の研究

結果を検討する学び合いの場面での学習スタイル（自己内対話か他者との対話）の在り方

- 授業の実践
教材、資料、問題提示、発問、指示、評価、支援策、板書、ノート指導
- 理論研究
講師招聘、先行理論研究
- 指導力向上のための研修
ワークショップ形式の授業研究会、研究授業
- 支援体制の工夫
TT 及び少人数指導による指導方法・・・3年（黒髪）、4・6年（級外）
学習教材の工夫、ICT の利活用
- 自分の考えを明確にもたせるための学習過程の工夫
問題提示、めあて、見通し、自力解決、学び合い、まとめ、ふり返り
- 自分の考えを表現する場面の工夫
操作活動、数・式・図・表・グラフ等を活用、算数用語や数を使った表現
- ◎ 発達段階や児童の実態に応じた学び合いの工夫
 - ・学習スタイルの選択
(他者との対話) 二人学び、グループ学び、みんなで学び、
(自分との対話) 自分の考えをより見つめる。
- ◎ ヒントコーナーの工夫
 - ・自己内対話ができるようなヒントコーナーを設ける。
 - ・既習事項を確認したり、具体物操作をしたりできるような場を設ける。
- 教師のコーディネート
 - ・発言をつなぐ、考えを広げ、深める発問
 - ・小集団を意図的に作る声かけ
- 新学習指導要領に対応した学習評価
 - ・目標と学習評価を対応させる

(2) 授業を支えるための取り組み

- 家庭との連携と生活習慣の改善
「きらきらかあど」の実施、自学ノートの取組（4年生以上）、家読の推進
- 環境の整備
児童のノートや算数学習用語等の掲示、「算数コーナー」の設置・補修
- 言語活動の広がり
とっくん、漢字検定、漢字タイム

6 研究の組織とその内容

組織の構成



※研究推進委員会：校長（中村）、教頭（山口）、指導教諭（副島）、研究主任（千々岩）、児童支援（坂本）、低学年（溝口）、中学年（横尾）

① 研究推進委員会

研究の基本的な事項の検討、研究テーマの理論の追求と実践方法の研究、企画、立案、研究日程計画、研究推進の円滑な運営

② 全体研究会

研究内容・方法等についての検討、授業研究会の実施、授業事後の授業研究会

③ 学年グループ部会

研究内容の具体的実践、授業実践における教材研究、児童の実態把握及び情報交換、研究成果の記録と研究資料の提供

④ 専門部会

ア 授業づくり部

算数科の授業づくりの共通理解、算数科に関する資料の収集（実践資料、先行研究資料、他校の研究発表資料・情報の共有）

イ 環境づくり部

算数コーナーの設置・見直し・補修、算数科教具の補修、児童ノートの紹介

ウ 補助的学習・調査部

算数科の意識調査の実施及び分析（全学年対象 6月と12月）